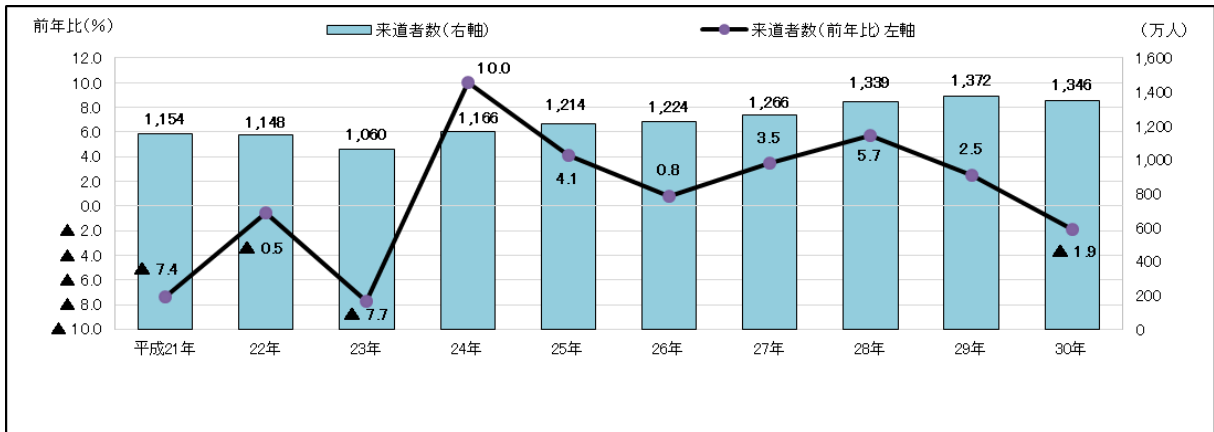


4 観光

平成30年の本道への来道者数は、1,346万49百人で前年比▲1.9%となり、7年ぶりに前年を下回った。

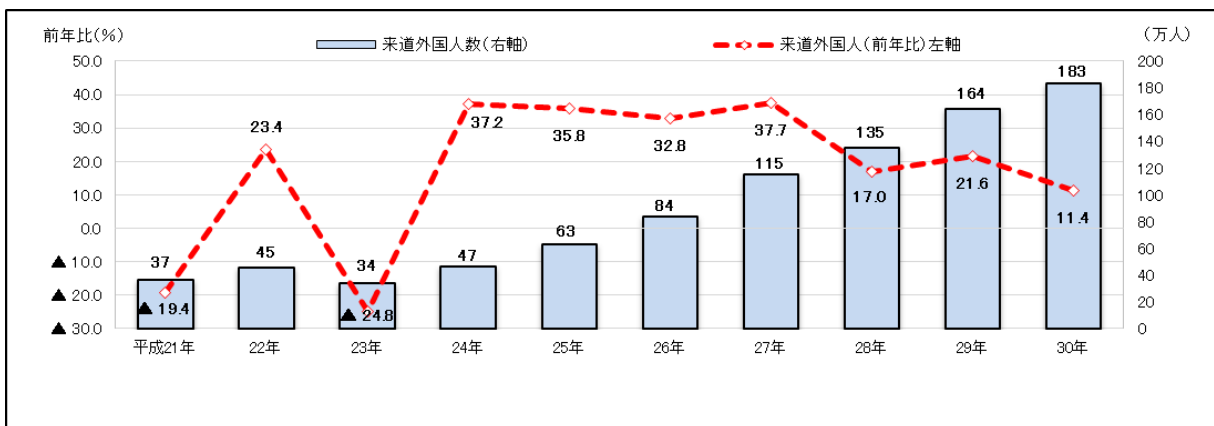
4-1 来道者数の推移(年計)



(資料) (公社)北海道観光振興機構

本道に直接入国した外国人数は、定期便の増便やLCCを含む新規就航路線の拡充などにより、前年比+11.4%の182万96百人と7年連続で前年を上回った。

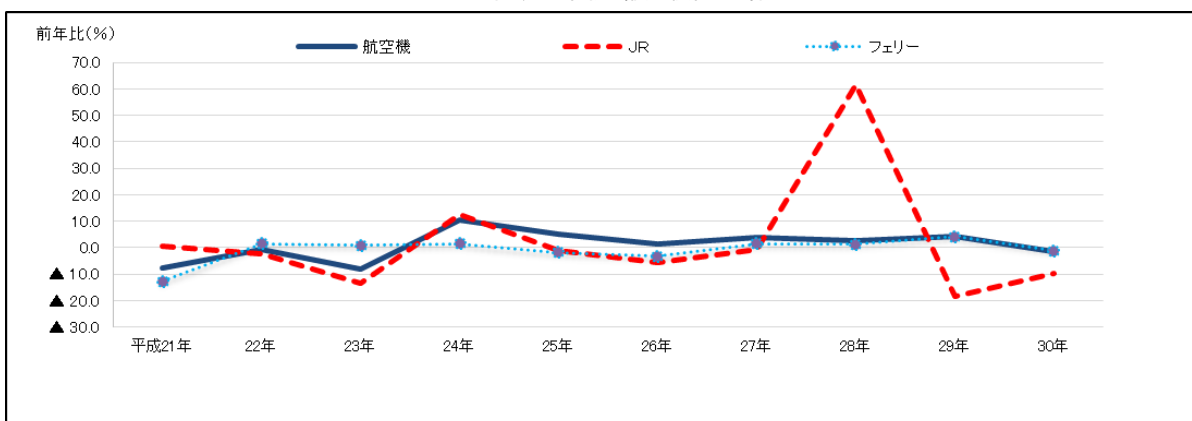
4-2 本道に直接入国した外国人数の推移(年計)



(資料) 法務省入国管理局

輸送機関別では、航空機は、1,173万8千人で前年比▲1.3%、JRは、83万7千人で同▲9.8%、フェリーは、88万99百人で同▲1.2%となった。

4-3 来道者数の推移(輸送機関別増減率:年計)



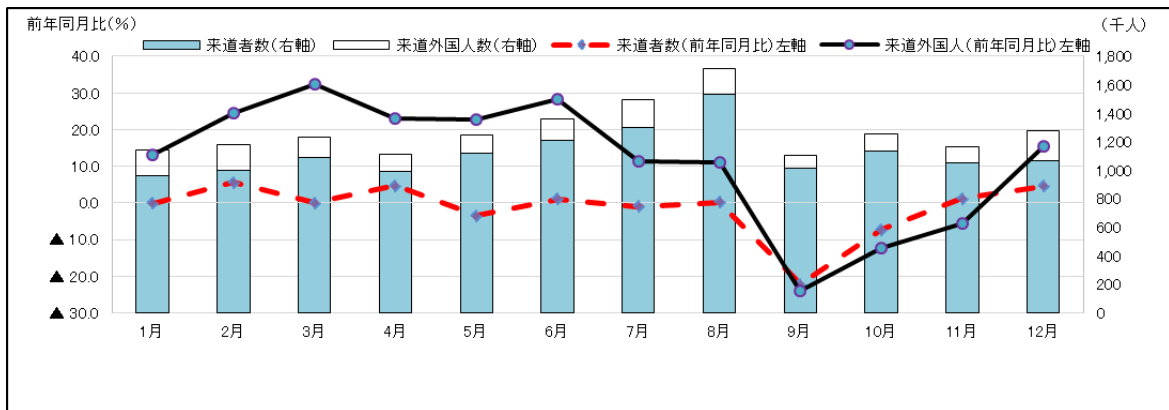
(資料) (公社)北海道観光振興機構

月別でみると、春節期間がずれ込んだ2月や旅行需要が堅調だった4月で好調だったものの、ゴールデンウィークの日数減が響いた5月、台風や地震により欠航便が増加したことや来道を控える動きなどにより、9月には来道者数が大幅に減少した。

しかし、10月からスタートした「北海道ふっこう割」が好評だったことから、11月からは前年を上回った。

本道に直接入国した来道外国人数は、地震の影響で9月に減少したものの、徐々に回復し、12月には前年を上回った。

4-4 平成30年 来道者数(月別)



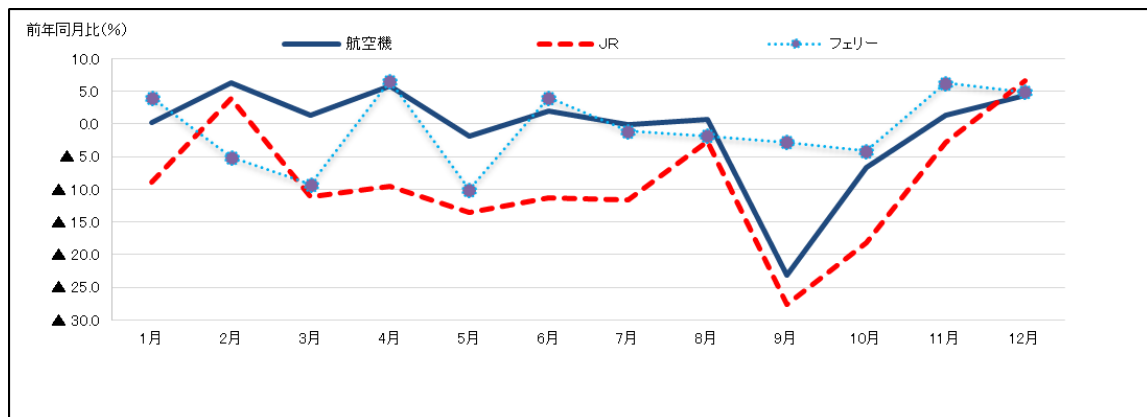
(資料) (公社)北海道観光振興機構、法務省入国管理局

輸送機関別でみると、航空機は大雨などの悪天候や地震の影響により、新千歳空港が閉鎖したほか、欠航便の多発、減便などにより、5、7、9、10月で前年同月比がマイナスとなった。

JRは、春節により外国人客が増加した2月とネット会員限定の特典乗車券が好調となった12月以外の月でマイナスとなった。

フェリーは、船体の損傷や悪天候による欠航などにより、前年同月を下回る月が多かった。

4-5 平成30年 来道者数(輸送機関別増減率:月別)



(資料) (公社)北海道観光振興機構

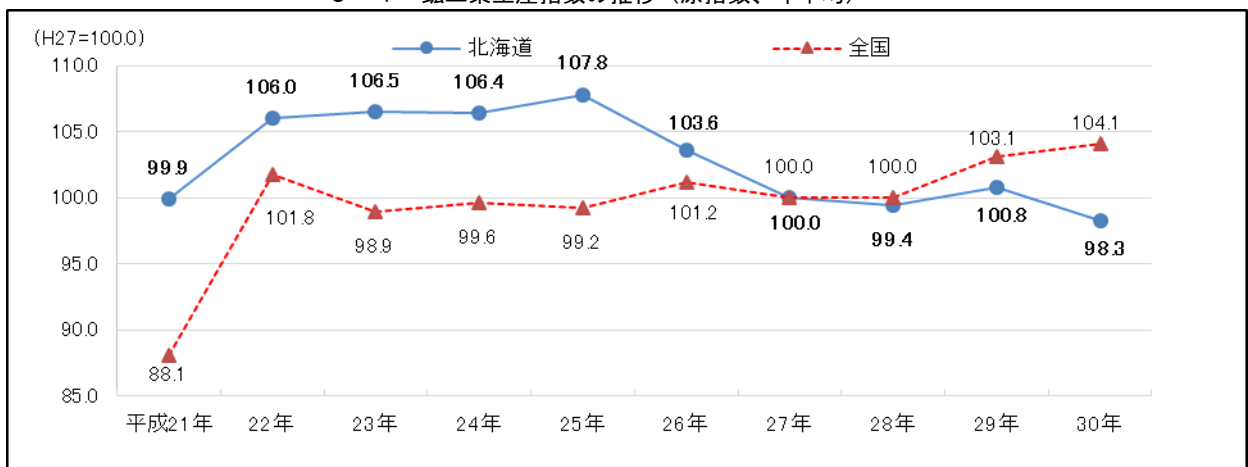
5 生産活動

平成30年の本道の鉱工業生産指数（原数値、年平均）は、98.3で前年比▲2.5%となり、2年ぶりに前年を下回った。

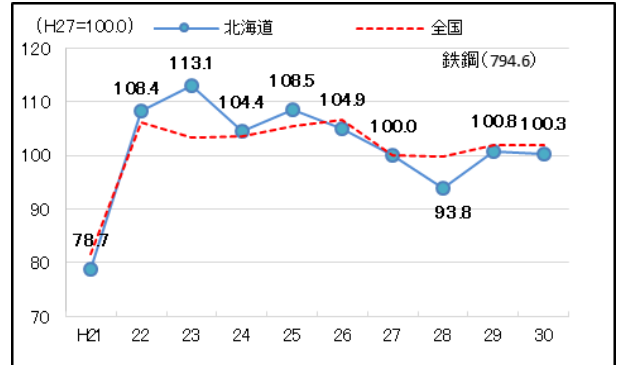
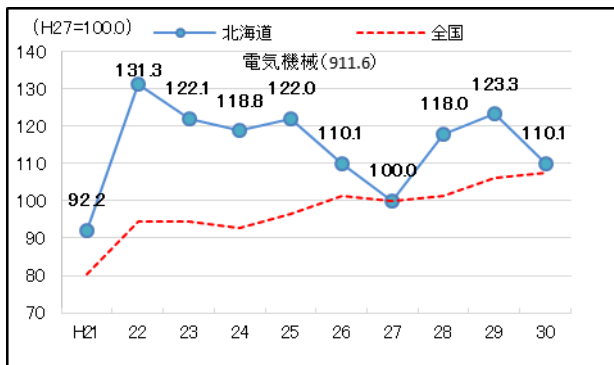
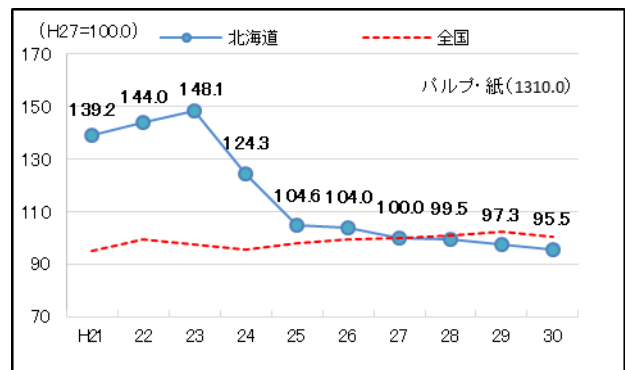
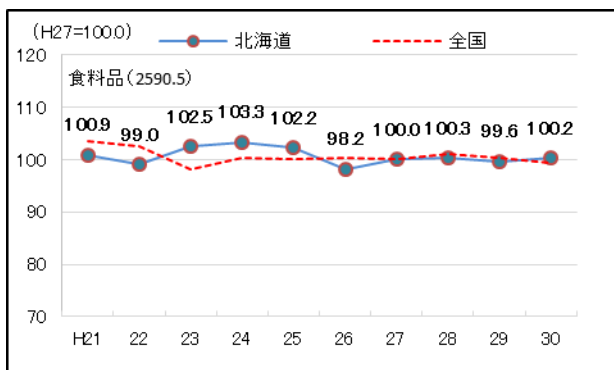
主な業種では、食料品工業は、同+0.6%の100.2、パルプ・紙・紙加工業は、同▲1.8%の95.5、電気機械工業は、同▲10.7%の110.1、鉄鋼業は、同▲0.5%の100.3、化学・石油石炭製品工業は、同▲8.9%の90.9、金属製品は、同▲9.8%の83.0、輸送機械工業は、同+4.6%の102.1、窯業・土石製品工業は、同▲4.8%の100.4だった。

外国向けの自動車部品を中心に輸送機械工業が好調に推移したものの、これまで堅調に推移してきた電気機械工業の一部生産体制の見直し等による影響や9月の地震・停電により生産設備の停止等があった化学・石油石炭製品工業などが減少した。

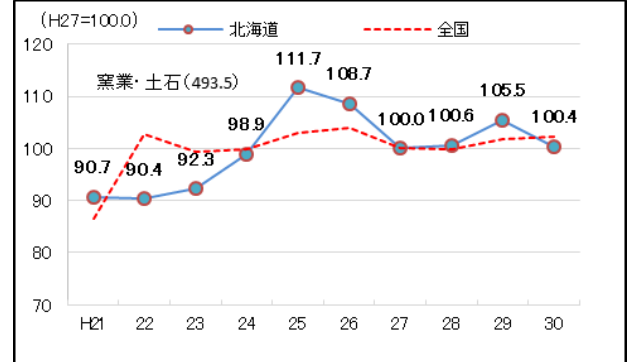
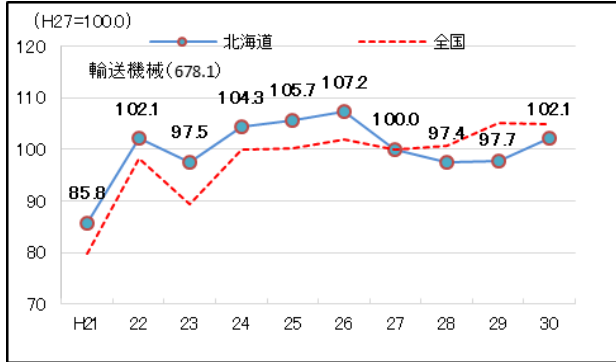
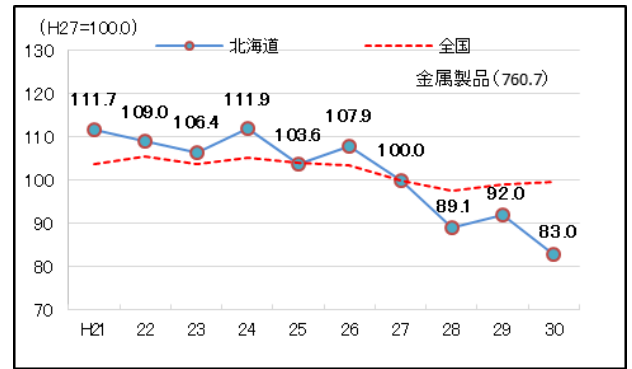
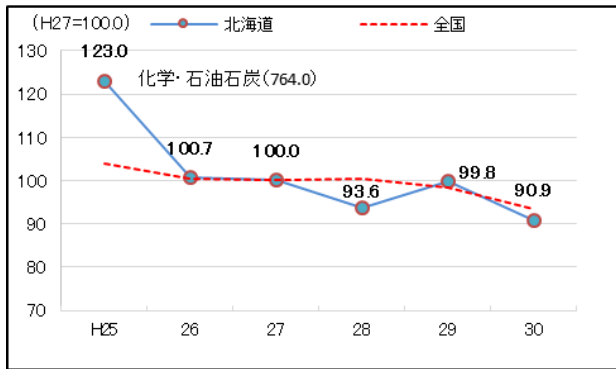
5-1 鉱工業生産指数の推移（原指数、年平均）



5-2 鉱工業生産指数の推移（業種別：原指数、年平均）



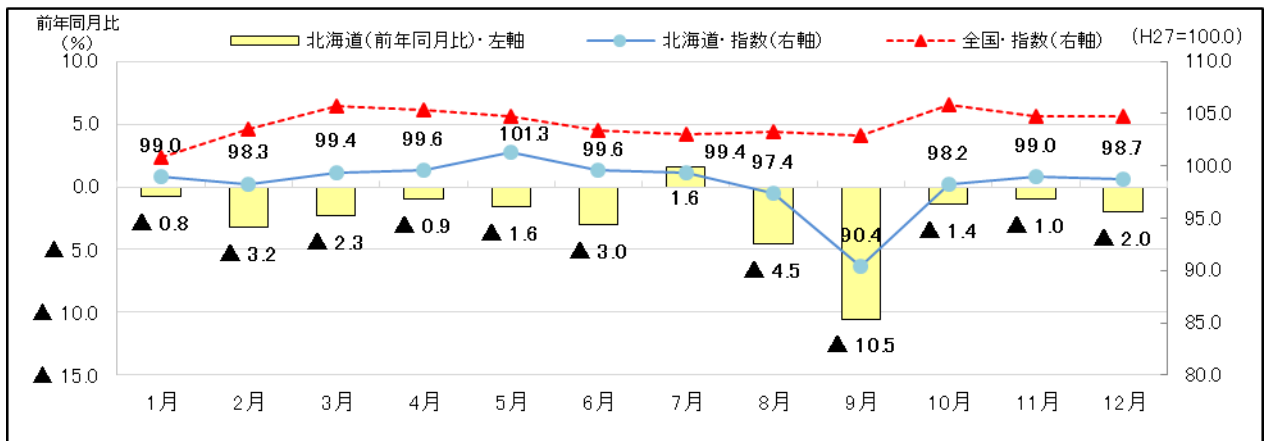
（資料）経済産業省、北海道経済産業局



鉱工業生産指数（季節調整済指数）の推移をみると、一進一退の動きとなっているが、9月は、地震による停電や設備のトラブル等の影響により、操業の一時停止のため、大きく低下した。

また、鉄鋼業、窯業・土石製品工業、金属製品工業等で人手不足等による工事の遅れから生産の減少がみられた月があった。

5-3 平成30年 鉱工業生産指数（季節調整済指数、前年同月比：月別）



(資料) 経済産業省、北海道経済産業局